

## 年 頭 の 辞

## 新年のご挨拶



一般社団法人 軽金属学会  
会長 岡本 一郎

新年明けましておめでとうございます。

本年も会員の皆様のますますのご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

昨年は、米国の通商政策を巡る貿易面への影響や中国経済の成長の減速、英国のEU離脱問題など先行きに対する不透明感が強まりました。わが国でも、これら世界経済の変動の影響により、輸出や生産において弱含みな状況が継続しているとともに、消費税増税の影響もあり国内経済は楽観できない状況です。

こうした中であって、環境問題を背景とした軽金属材料への期待は引き続き高まっており、自動車やトラック、鉄道など軽量化による省エネルギーが期待される輸送分野で軽金属材料の需要が着実に増加している傾向はその一例です。また、持続可能な開発目標も視野に入れ、低炭素社会、循環型社会の実現に向けて軽金属材料の果たす役割はますます重要になっています。軽金属学会は「軽金属に関する学術・技術の進歩発展を図り、工業の発展に尽くす」ことを目的に、さまざまな活動を実施してきました。昨年を振り返りつつ、今年具体的な活動に取り組んで参りたいと存じます。

春秋の講演大会は、2018年の第135回秋期大会から会期が2.5日になり、2019年は、第136回春期大会が5月10, 11, 12日富山国際会議場で開催され、153件の口頭発表と58件のポスター発表がありました。また、第137回秋期大会は11月1, 2, 3日東京農工大学小金井キャンパスにて開催され、152件の口頭発表と77件のポスター発表がありました。若い研究者や学生の発表が多く、ここから将来の軽金属を担ってくれる人材が育ってくれることを期待します。本年の講演大会も2019年同様に会期2.5日を予定していますが、2.5日制になったことに伴う良いことや改善が必要なことなども見えてきました。出てきた課題に対しては会員の皆様の意見を伺いつつ議論を進め、来年以降の方針を決めたく存じます。

2019年は軽金属に関するシンポジウム、セミナー、見学会を多数企画・実行しました。また、支部活動でも講演会や発表会、サマースクール、見学会など多くの企画が実施されました。研究部会では新設7部会を加え、合計19の研究部会活動を通じて新たな価値の創造も図っています。なお、学会誌は順調に発行されていますが、投稿論文数の減少は懸念される所です。研究論文が掲載された著者に対しては、講演大会での懇親会費1名分を無料とする投稿増加策を開始しました。今後も、充実した学会誌を提供できるよう検討を進めていきます。

国際交流では初の試みとしてタイ・バンコクでアルミニウム技術セミナーを6月に開催しました。また、国際ワークショップを開催するとともに、2022年に富山で開催されるアルミニウム合金国際会議（ICAA 18）に向けた組織委員会、実行委員会を発足しました。今年も、国際ワークショップやオーストラリア、中国、韓国、台湾の参加によるAsian Light Metals Association（ALMA）のフォーラムが予定されており、引き続き会員の皆様へ国際交流の場を提供してまいります。

多様な人材がそれぞれの能力を十分に発揮しつつ成長しあえる場となる学会を目指し、男女共同参画委員会では春秋大会期間中のセッション開催や若手の会、女性会員の会などを運営しました。これら活動を通じて、若手会員、女性会員の増強につなげるとともに、中高生対象のオープンキャンパスでの啓蒙企画や工場見学会など若手人材育成にかかわる企画や他学協会との連携も進めていきます。

会長に就任して7か月余りが過ぎました。就任のあいさつ（本誌69巻6号）で、将来に向けてのキーワードとして掲げました「幸せを創る」軽金属学会については、「参加してみよう」「会員で良かった」と思える学会作りのため、「幸せを創るために学会はどうあればよいか」を、総合計画委員会をはじめ常設委員会で議論し、次世代を任せる若い会員の意見も傾聴しながら、各事業における課題を抽出している所です。抽出された課題に対して議論を尽くし前向きに取り組んでゆく所存です。会員の皆様からも忌憚のないご意見お寄せいただき、より一層の学会の発展に、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。